

# 乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO. 84

2021.5

## Dose dense(ドース・デンス)化学療法について

乳がんは手術だけでなく、今後の再発を予防するために術後の治療として、化学療法(抗がん剤治療)、ホルモン療法、分子標的治療などが、ほとんどの場合必要となります。

3weeks → 2weeks



化学療法は従来3週間に1回の点滴が標準とされてきました。抗がん剤の抗腫瘍効果は、単位時間あたりの抗がん剤の投与量に依存します。単位時間あたりの抗がん剤の投与量を多くするために、抗がん剤の投与間隔を狭める方法をdose dense(ドース・デンス)化学療法と呼びます。投与間隔を狭めることで、腫瘍の再増殖の期間を短縮するだけでなく、抗がん剤への感受性の高い時期に次の投与が可能となり、より効果的となります。具体的には、3週間に1回の点滴 から、2週間に1回へと投与期間を狭めて点滴を行います。

最新の乳癌診療ガイドラインでは、再発リスクが高くかつ十分な骨髄機能を有する症例では、原発乳がん術後化学療法として、G-CSF\*(顆粒球コロニー刺激因子)を併用したdose dense化学療法を行うことが推奨されています。

一方、抗がん剤の副作用である骨髄抑制については、抗がん剤投与後に予防的な注射(G-CSF)を行うことで、骨髄抑制を軽減し、2週間毎の点滴が可能となります。

また、抗がん剤治療中、好中球が減る時期に発熱を生じることがありますが、これに関しても、G-CSFを注射することで頻度が減少します。G-CSFの副作用として、発熱や骨痛を認めることがありますが、鎮痛剤で対処可能です。

当院でも今後、対象となる患者さんにはdose dense化学療法を導入予定です。治療に際し、不安なことがあればいつでも医師や看護師、薬剤師が対応させていただきます。



\*G-CSF(顆粒球コロニー刺激因子)：血液中の好中球の数を増やし、働きを強める効果があります。G-CSFを投与することにより、好中球数の少ない期間が短縮され、感染症にかかる危険が少なくなります。

乳腺外科副部長 泉井 綾香

市立貝塚病院  
TEL : 072-422-5865

